

令和８年度第１回一関市図書館協議会 会議録

1 会 議 名 令和８年度第１回一関市図書館協議会

2 開催日時 令和８年７月２日（木）午後２時から午後３時40分まで

3 開催場所 一関図書館 1階 学習室

4 出席者

- (1) 委 員 佐々木伸也委員、二階堂美恵委員、永澤恵子委員、金安信委員、
岩越裕史委員、鈴木宏委員、玉澤万里子委員、村上駿輔委員、
門田真奈美委員、菅原慶子委員、吉瀬献策委員、岩本智美委員、
那須照市委員、阿部利彦委員、千葉哲夫委員

※欠席者 菅原夏希委員

- (2) 事務局 時枝直樹教育長、藤倉忠光一関図書館長、八重樫裕之花泉図書館長、
佐藤和子大東図書館長、千葉浩千厩図書館長、佐藤鉄也東山図書館長、
小野寺晃一室根図書館長、山形雅彦川崎図書館長、
西村ミドリ一関図書館主幹、佐藤俊憲一関図書館副館長兼企画管理係長、
吉住優一関図書館主任主事

5 議 題

- (1) 一関市図書館協議会会長の互選について
(2) 一関市図書館協議会副会長の指名について
(3) 一関市教育委員会事務事業等の点検評価に係る外部評価委員の推薦について
(4) 一関市社会教育委員の推薦について
(5) 令和７年度一関市立図書館事業報告について
(6) 一関市立図書館振興計画について
(7) 一関市立図書館運営方針、令和８年度の具体的な取組について（答申事項）
(8) その他

6 公開、非公開の別 公開

7 傍 聴 者 なし

8 教育長挨拶

日頃から市内図書館の運営並びに教育行政に対し、御理解と御支援を賜り、心より感謝申し上げます。

先ほど委員の皆様には辞令書を交付させていただきました。継続して委員をお務めいただく方、新たに委員となられた方、それぞれ今後２年間、本市図書館行政の充実に向けてお力添えを賜るよう、よろしくお願い申し上げます。

現在、一関市では人口減少への対応が大きな課題となっており、教育委員会においても重要な課題として取り組んでいる。昨年度策定した一関市教育振興基本計画では、「郷土を愛し 自ら学び 未来を拓く 一関のひとづくり」を基本目標に掲げた。人口減少が進む中で、将来の地域を支える子どもたちが郷土への理解と愛着を深め、自ら課題を見つけ、学びながら地域づくりや社会を担う人材として成長していくことを目指している。この考え方は学校教育だけでなく、社会教育や図書館にも共通するものである。

図書館振興計画では、「いつでも、どこでも、だれでも、知り、学び、楽しめる図書館、市民とともに成長する図書館」を基本理念として掲げ、市民の知る権利を支え、幅広い世代が生涯にわたり学び続けられる環境づくりを進めている。

図書館は、子どもから高齢者まで誰もが学びたいことを学び、自ら課題を解決しながら人生を切り拓いていくための拠点であり、市民の期待に応えていくことが、人口減少社会においてますます重要になっていると考えている。

市内8館の図書館では、様々な事業が新聞などでも数多く取り上げられており、それだけ地域の皆様から期待を寄せられているものと受け止めている。本日も、各館の事業や取組について御説明するので、委員の皆様から率直な御意見をいただければ幸いである。

厳しい財政状況ではあるが、市内図書館の蔵書は100万冊を超え、全国でも有数の蔵書数を維持している。今後も、市民の皆様が身近に読書に親しみ、生涯学習を続け、文化的な生活を送ることができる環境づくりに努めるとともに、図書館を通じて一関への愛着を深めていただけるよう取り組んでいく。

本日は、3月18日に諮問した案件について御審議いただく。委員の皆様からいただく御意見を今後の図書館運営に生かし、より良い図書館づくりに努めていく。

9 審議内容

(1) 一関市図書館協議会会長の互選について

互選の結果、那須照市委員が会長に選出された。

(2) 一関市図書館協議会副会長の指名について

会長指名の結果、金安信委員が副会長に選出された。

(3) 一関市教育委員会事務事業等の点検評価に係る外部評価委員の推薦について

事務局から菅原慶子委員に依頼したことを説明し、了承された。

(4) 一関市社会教育委員の推薦について

事務局から二階堂美恵委員に依頼したことを説明し、了承された。

(5) 令和7年度一関市立図書館事業報告について

資料に基づき事務局から説明を行った。質疑応答等なし。

- (6) 一関市立図書館振興計画、(7)一関市立図書館運営方針、令和8年度の具体的な取組について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 単に本を閲覧・貸出しする施設ではなく、現在では「学びの場」としての役割が期待されている。学習スペースの開放については、中学校長からも意見を伺いながら取組が進められており、地域にとって欠かせない施設としての役割を担い始めている。今後の更なる展開に期待したい。

委員 地元の図書館運営協議会では、図書館振興計画に盛り込まれた「学びの成果を地域につなげる」という考え方について議論があった。

小学校教員からは、地域連携を重視した学習を進める中で、児童が学習で作成した作品や成果物を図書館で展示してはどうかとの提案があった。

委員自身も、学校は外部から見えにくい場所であり、児童の学習成果を見る機会は授業参観程度に限られていると感じている。

図書館で展示することで、地域住民や保護者が子どもの成果を見るために図書館へ足を運ぶきっかけとなり、学校と地域をつなぐ役割を図書館が果たせるのではないかと。

委員 小学校と中学校が図書館近くに統合されたものの、特に中学校との連携が十分に図れていない状況が続いている。他地域の取組を参考にしながら、学校とのつながりを深めたい。

また、小学校統合前には各校で読み聞かせボランティアが活動していたが、統合後に中断していたため、再開してほしいとの要望が運営協議会で出され、実現の可能性が見えてきたことを喜ばしく感じている。

地元の図書館で実施した絵本づくりでは、子どもから高齢者まで様々な世代が一緒に参加し、大変好評であった。世代間交流ができる事業は今後も重要である。

加えて、自身が毎月実施している大人向け朗読会では参加者が増加しており、「自分で本を読むのは大変だが、読んでもらえるのはありがたい」という声が多く寄せられていることから、高齢者を含めた大人向けサービスも図書館の重要な役割ではないかと。

委員 学校現場の立場から、学校と図書館との連携は極めて重要である。継続的な読書習慣の形成だけでなく、情報活用能力を育成する基盤として図書館は重要な役割を担っている。

各図書館運営協議会の報告資料には、図書館司書との連携、地域ボランティア

アによる支援、読書環境整備、ブックトーク、おはなし会など、多様な学校支援の取組が紹介されており、学校として大変ありがたく感じている。

また、自校では夏休み前に通常2冊の貸出を3冊に増やし、学習につながる本、自分の好きな本、少し長めの物語という3種類を借りるよう指導している。学校だけでは十分な蔵書を用意できないため、市立図書館から借りる流れを大切にしており、今後も学校と図書館が情報交換しながら、地域全体で子どもの読書活動を支えていきたい。

委員 地元の図書館運営協議会では、学校・図書館・ボランティア団体との連携について議論した。コロナ禍以前は学校とボランティア団体との交流が活発であったが、現在は停滞している状況であり、ボランティア側からも「声を掛けてもらえればいつでも学校へ行く」との意見が出されたことから、今後は学校・図書館・ボランティア団体の連携を更に深めていきたい。

委員 地元の図書館運営協議会では、「地域の宝」をテーマとした資料づくりについて、小学校、中学校の総合的な学習の時間と時期を合わせることで、児童生徒が更に発展的に学習できるのではないかと意見が出された。

また、中学校からも総合的な学習との連携について賛同があり、学校と地域がより一体となって地域の魅力を発信できる。

更に、図書館イベントのチラシを学校へ配布する際、運営協議会委員が昼の校内放送で紹介したところ、子どもたちが親しみのある地域の方の声として受け止め、地域とのつながりを感じる良い機会となった。

他地域の報告にあった学校成果物の展示についても参考になった。今後は学校から図書館へ積極的に発信していくことも大切ではないか。

委員 学校との連携を重点項目として位置付けてもらっており、感謝申し上げる。自身も授業用図書の団体貸出しを十分活用できていなかったことから、今後は図書館利用者の増加にも貢献できるよう積極的に活用したい。

委員 図書館で様々なイベントが実施されていることを最近知った。イベント情報が十分に目に入っていないため、人目につきやすい場所へのチラシ掲示や、InstagramなどのSNSを積極的に活用することで、より幅広い世代への周知につながるのではないか。

委員 学校教育では、本を読むことや授業を受けることはインプットに当たるが、学習の定着にはアウトプットが重要である。本で学び、総合学習などで実践し、それを発表する。その発表をきっかけに再び調べ学習を行うというように、インプットとアウトプットを繰り返す学習サイクルを図書館と学校が連携して支

えていくことが重要である。

委員 市民センターや地域団体の活動に関わる立場から、図書館で学んだ成果を発表する場として市民センター事業なども活用できるのではないか。こども食堂など地域活動の場でも、ブックトークや発表活動などアウトプットの機会を設けることで、地域全体で学びを支えることができる。

また、市内でも外国人居住者が増えていることから、外国人向け図書の利用状況や貸出しの傾向についても把握してみてはどうか。

委員 地元の図書館運営協議会で出された主な意見として、農業支援コーナーなど地元の図書館独自の特色を更にPRしてほしい。高齢者向けのおはなし会を実施してほしい。移動図書館の巡回先が増えた一方で、職員数が増えておらず、職員負担が大きくなり、特に、図書館に来館できない住民へのサービス拡充のためにも、人員体制の充実が必要ではないかとの意見が挙げられた。

委員 各図書館が地域の特色を生かした重点事業を計画していることを高く評価する。一方で、企画展示や各種イベントの実施数が非常に多く、職員の負担が過重になっていないか心配しており、適切な業務量への配慮を求める。

委員 図書館は「知識の宝庫」であり、50年以上前からその役割は変わっていないことを実感した。

図書館にはAIでは代替できない価値があり、職員の確保を含めた体制整備を進めながら、地域の知の拠点として発展してほしい。

委員 図書館は読書や学習だけでなく、誰もが安心して過ごせる地域コミュニティの場でもある。高校勤務時代、不登校や家出をした生徒を探す際に図書館が居場所となっていた経験があり、図書館には興味関心の有無にかかわらず人を受け入れる機能があると思う。

また、学校で行う探究学習の成果を図書館で発表する取組も有効ではないか。

事務局 外国語資料の所蔵状況について、図書館には語学書を中心に約1万5,000冊の外国語関係資料があり、多言語資料を含めると約2万冊程度所蔵している。

企画展示の準備体制について、企画展示や資料整理は、毎月設けている資料整理休館日に実施している。この日は通常開館せず、職員が資料整理、除籍作業、企画展示の入替え等を集中的に行っている。

(8) その他

事務局から情報提供を行った。

- ① 図書館情報システム更新に伴い、一時的に貸出停止となる期間が生じる見込みであること

② 電子図書館の紹介

③ 図書館で利用可能なデータベースの紹介

④ 本年度各館で予定している講演会、講座、学校連携事業等の主なイベントの紹介

10 答申

一関市図書館協議会長から一関図書館長に対し、令和7年度第4回一関市図書館協議会における諮問事項（令和8年度事業計画の策定）に対する答申があった。

その内容は、計画案は審議の結果妥当であると認め、次の意見について検討し、計画の実施において活かすよう求めるものであった。

- (1) 総合学習や調べものの学習の発表の場や、アウトプットの場、地域コミュニティの場として、図書館の活用を工夫されたい。
- (2) 図書館行事について、いろいろな媒体を活用し周知願いたい。
- (3) 今後も学校と図書館との連携を継続されたい。
- (4) 室根大祭のような各地域の郷土の文化を理解できるような巡回企画展などを検討願いたい。
- (5) 職員の過度な負担とならないよう適正な業務量とされたい。

11 担当課 一関図書館